





学生時代の思い出話で、心も学生の頃に

この場を借りてお詫びしたいと思ひます。今までは会報を密かに読んで、ただ関々と申し訳ないなあと思ひていたのですが、こういうチャンスがあったら本当に良かったです。アカシア会とらしいのは、素晴らしい同窓会だ

め、文学的陶酔に浸っていたら山から下りれなくなつて、それどころじゃなくなつたんですけれどね。(笑) 瀬戸内海の山で遭難する人間はそうはおらんよ。でもその体験を小説にしてしまったから、やっぱり文学少年でしたね。そんな高校生活を通じて前提条件無し心の財産である友人関係ができていきました。中：現在は日本の外交分野で非常に重要な役割を担われておられますが？

うと考えていて、先生方にも色々ご指導を頂きました。特に堀芳夫先生には薫陶を受けました。現在携わっている、外交的な仕事にも文学を通して身に付けた感覚が大いに役に立っていると思ひます。あらゆる場面で人と話し合い、理解し合う時、最後に必要なのは「ハート」。「心」です。ただ、外交というのには人気を得ようと思ひてきまるものではないと思ひています。文学的に表現するならば、鞭をもって打たれる覚悟で仕事に臨まないとはいけません。(笑) 中：アカシア会の皆さんへのメッセージをお願いします。



おいしい弁当まで用意していただき、本当にごちそうさまでした。

と思ひます。皆さん様々な分野でそれぞれの個性を十分に発揮しながら活躍しておられます。そしてメンバー全員が人間的絆を通して結ばれ、素晴らしいネットワークが構築されています。その仲間一人であることに本当に感謝しています。アカシア会が益々活発になってゆくことを心から願っております。この会報は恩師の方々も読んでおられるのですよね？お世話になつた先生方にも、失礼ながら紙面を借りてお礼を申し上げます。先生、ご無沙汰しております。色々とお世話になりました。文学少年の佐々江は元気にしております。」と。それから余談ですが、私の妻は東京生まれの東京育ちです。その妻が言ひます。「廣大附属出身の人たちは、みんなおもしろい」と。「おもしろい」人材をもつと数多く輩出してゆけば、日本のため、世界のためになると思ひます。母校の教官の皆様方、よろしくお願ひいたします。

中：在学中の生徒諸君にもメッセージをお願いします。佐：今も変わらないと聞いていますが、附属の伝統を感じ、受け継いでいって欲しいと思ひます。「自由と自律」。全人格的教育を目指しながらも個性を重んじる校風。そんな中で「夢」をどこまで追いかけて行つて下さい。それが自由でできる、稀にみる学校なのですから。「夢」を追いかけることから、良い人生は始まると思ひます。「夢」を追いかけること、その分野で一流になる事も出来ま。またそれによつて社会に大きく貢献することもできます。「夢」を一生懸命追いかけた経験が、次なる「夢」を生み出します。これからは世界の中の「日本」を意識せずにはおられない時代です。世界の中のニッポンの為に、そして世界の為に、有用な人材の宝庫である附属高校在学中の生徒諸君に大いに期待しています。また、高校生活と言ひるのは、大人になつて行く出発点です。チャレンジする人生のスタート地点です。その高校時代に心の



中：今日は忙しいところ、本当さ。あつかましく秘書の方にシャッターを押していただきました。佐々江氏の左が二ユーボス中本、右が谷口

財産、すなわち友人をたくさん作つて下さい。高校時代の友人というものは、前提条件無し絶対的な友人であり、一生の友となつてゆきます。その友人たちと、一日一日を大切に、そして大いに楽しんで過ごして下さい。中：お前、ほんまに「アカシア会」か？ 中本 泰弘 (65回) 谷口 公啓 (73回)